

「公共事業コスト構造改善」（平成 23 年度）

結果報告について

平成 25 年 2 月 1 日
公共事業コスト構造
改善推進ワーキング

（これまでの取り組み）

公共工事コスト縮減対策関係閣僚会議により平成 9 年 1 月に策定された行動指針に続き、平成 12 年 9 月に「公共工事コスト縮減対策に関する新行動指針」が策定されました。これらに加えて平成 15 年度からは「公共事業コスト構造改革プログラム」が策定され、公共事業コストについてすべてのプロセスをコストの観点から見直す取り組みが行われてきました。

この結果、平成 19 年度までに、平成 15 年度と比較しての総合コスト縮減率は 14.0% となっております。

さらに、平成 20 年度からは、これまでの取り組みに加えて、コストと品質の観点両面を重視した「コスト構造改善」に取り組むこととし、その施策プログラムである「公共事業コスト構造改善プログラム」（以下「プログラム」）を策定し、平成 20 年度から平成 24 年度までの 5 年間で、平成 19 年度と比較して、15% の総合コスト改善率を達成することを目標としています。

プログラムでは、「実施状況については、具体的施策の着実な推進を図る観点から、適切にフォローアップし、その結果を公表する。」こととしており、今回、平成 23 年度の実施状況をとりまとめ、報告いたします。

1. 総合コスト改善率

～平成 19 年度の標準的な公共事業コストと比較して 11.1% の改善

平成 23 年度は、政府全体（全府省・全公団等）で、コスト構造改善プログラムに基づきコスト改善施策を実施（別紙－1）。その結果、平成 19 年度の標準的な公共事業コストと比較した総合コスト改善率は 11.1% となった。また、物価や労務費等の全体的な物価変動を含めた場合には 9.9% となる。（別紙－2）。

今後も公共事業のコスト構造改善を推進していく。

○全府省・全公団等の平成 23 年度実績

総合コスト改善率 : 改善率 : 11.1% 改善額 : 3,963 億円
物価等の変動を含めた改善率 : 改善率 : 9.9% 改善額 : 3,583 億円

注) 1. コスト改善実績は、全省庁が共通の考え方で算定作業を実施しており、平成 19 年度における標準的な公共事業のコストと比較している。

2. 総合コスト改善率とは、民間企業による技術革新の進展、老朽化する社会資本が急

増する中で国民の安全・安心へのニーズや将来の維持管理・更新費用が増大することへの対応、近年の地球温暖化等の環境問題に対する世論の高まりを踏まえ、これまでの「総合的なコスト削減」からVFM (Value for Money) 最大化を重視した総合的なコスト構造改善効果を評価するものである。

2. 施策実施事例

(以下 () 内は対応するプログラムの施策項目 (＜参考1＞参照))。

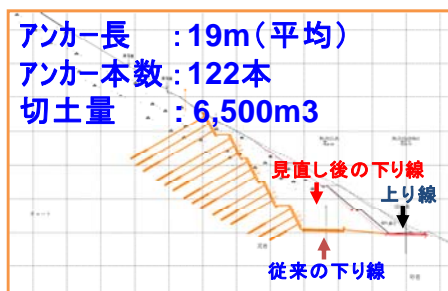
□ 計画・設計・施工の最適化

☛ 計画高見直しによるコスト改善

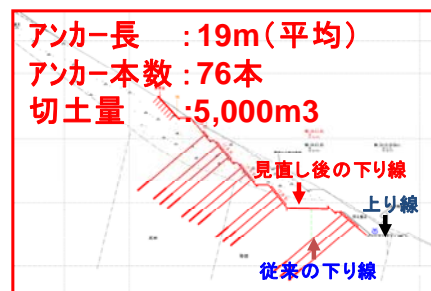
(【1】計画・設計の見直し)

- 熊本3号湯浦地区法面1工区工事において、切土法面における完成形の下り線の計画高を見直すことで、抑止力などの低減により、切土量、及びアンカーの本数を減らすことができ、33.0%のコストを改善(改善額 67百万円)

【従来】計画高見直し前



【新】計画高見直し後



(国土交通省)

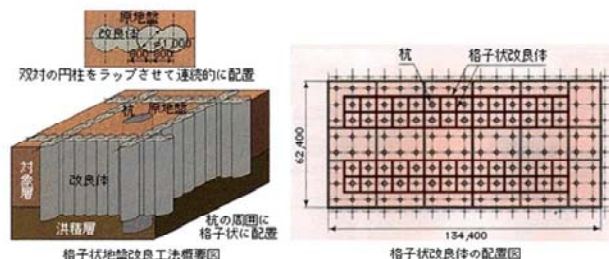
☛ 地業工事における工法の見直し

(【1】計画・設計の見直し)

- 鳴門教育大学(高島)構内地盤改良その他工事において、従来の場所打ちコンクリート杭による施工から格子状地盤改良工法による施工とすることにより、小型の機械での施工ができ、周辺建物への影響、及び騒音・振動の低減が図られるとともに、27.8%のコストを改善(改善額 5,000千円)



場所打ちコンクリート杭



格子状地盤改良工法

(文部科学省)

☛ 土壌と植物による雨水の浸透排水の積極利用による配管費用の縮減

(【1】計画・設計の見直し)

- ・ 東北大学（三条）国際交流支援センター新営その他工事において、従来の排水管理設による雨水排水から、雨水を池で受け湿性植物を育成するレイン・ガーデンにすることにより、地中への浸透水による地下水源の涵養と周辺環境の景観が向上。雨水排水管整備にかかる費用に比べ 55.5%のコストが改善（改善額 4,663 千円）。



(文部科学省)

☛ トンネル照明の新技术の採用による数量削減

(【3】民間技術の積極的な活用 施策 14)

- ・ 瀬戸中央自動車道塩生トンネル（下り線）等のトンネル照明設備更新において、標準化された新技术照明器具の採用による照明率の高効率化から、低圧ナトリウム灯（基本・入口照明）814 灯から、蛍光灯（基本照明）＋セラミックメタルハライド灯（入口照明）424 灯へ変更し、22.6%のコスト改善（改善額 21 百万円）

従来

低圧ナトリウム灯（基本・入口照明）814 灯



更新

蛍光灯（基本照明）＋セラミックメタルハライド灯（入口照明）424 灯

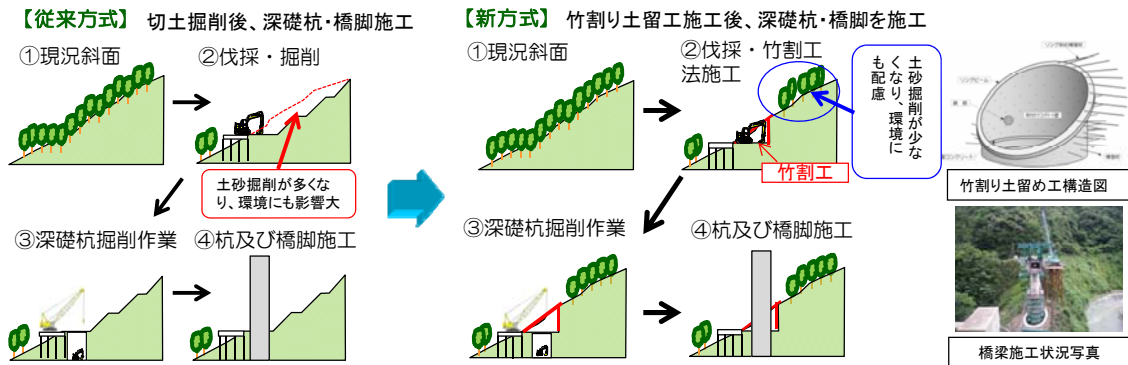


(本州四国連絡高速道路株式会社)

☛ 大口径深礎工（竹割り工法併用）を採用

（【4】民間技術の積極的な活用）

- ・ 浜ノ瀬ダム付替市道橋梁建設工事における橋梁基礎工の施工において、従来の切土掘削作業による施工から、基礎構築に必要な切土法面を最小限に抑えることができ、掘削量の低減等を図れる新工法（竹割り土留工）に変更したことにより、17%のコストを改善（改善額 25 百万円）



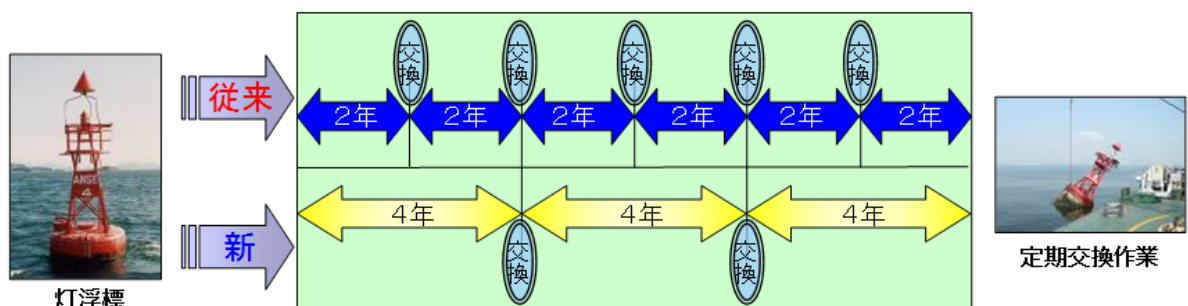
（農林水産省）

☐ 維持管理の最適化

☛ 灯浮標の交換周期の延伸

（【2】戦略的な維持管理）

- ・ 航路標識整備事業において、塗装等の長寿命化を図り、灯浮標の交換周期を従来の2年から4年に変更することにより、ライフサイクルコストを縮減し、初期投資・維持管理費で36%のコスト改善（改善額 402 千円/年）



（海上保安庁）

【連絡先】

国土交通省 大臣官房 技術調査課 建設システム管理企画室
 事業評価・保全企画官 瀬崎 智之 TEL 03-5253-8111 (内 22353)
 三浦 朋子 TEL 03-5253-8111 (内 22354)

公共事業コスト構造改善プログラムの概要

- ① (国民の安全・安心へのニーズや将来の維持管理・更新費用が増大することへの対応、近年の地球温暖化等の環境問題に対する世論の高まりを踏まえ、) これまでの「総合的なコスト縮減」から「VFM (Value for Money)」最大化を重視した「総合的なコスト構造改善」に向けて取り組むべき施策をまとめたもの。
- ② 施策の実施にあたっては、社会資本が本来備えるべき供用性、利便性、安全性、耐久性、環境保全、省資源、美観、文化性等の所要の基本性能・品質の確保を図ることとする。
- ③ 内容は、
 - (1) 事業のスピードアップ (3項目)
 - (2) 計画・設計・施工の最適化 (5項目)
 - (3) 維持管理の最適化 (3項目)
 - (4) 調達の最適化 (3項目)の合計14項目。
- ④ 平成20年度から5年間で、平成19年度と比較して、15%の総合コスト改善率を達成することを目標とする。
- ⑤ 毎年度、施策実施状況と数値目標についてフォローアップを実施。

公共事業コスト構造改善プログラムの施策番号一覧

I. 事業のスピードアップ

- 【1】合意形成・協議・手続の改善
- 【2】事業の重点化・集中化
- 【3】用地・補償の円滑化

II. 計画・設計・施工の最適化

- 【1】計画・設計の見直し
- 【2】施工の見直し
- 【3】施工プロセスにおける効率性の確保
- 【4】民間技術の積極的な活用
- 【5】社会的コストの低減

III. 維持管理の最適化

- 【1】民間技術の積極的な活用
- 【2】戦略的な維持管理
- 【3】効率的な維持管理

IV. 調達最適化

- 【1】電子調達の推進
- 【2】入札・契約の見直し
- 【3】積算の見直し